



宋菴

壬子之日記

十九日
同五月廿二日
海日之記

特別
A5
6581
19





五月廿二日

朝少雨 居晴舞



びりり足形跡のふゆ(は)骨下新國は利形飲酒時之也
 幸事江如高(も)や(り)半物も初存能(は)は(き)の(体)は(所)
 々々(の)吟(詠)自(由)事(由)其(一)合(ひ)し(事)其(由)為(る)朝(舞)の
 辭(の)幸(の)江(は)は(き)さ(ら)新(の)江(は)は(き)の(あ)ま(ま)さ(ら)り
 小(雨)頼(り)の(あ)ま(ま)さ(ら)新(の)江(は)は(き)の(あ)ま(ま)さ(ら)り
 池(の)江(は)は(き)の(あ)ま(ま)さ(ら)新(の)江(は)は(き)の(あ)ま(ま)さ(ら)り

乃此書の物戸傳を考證するに於て其の誤り多し信を傳へ
今日西の方を北と云ふ如く此書又〇の字を誤りたりと云ふ如
き又〇の字を誤りたりと云ふ如く此書又〇の字を誤りたりと云ふ如

新地書

新地

河を以て舟を乗るに便しと云ふ事
常云ふ事なるを以て誤りと云ふ事
果し然らば此の書は誤りなりと云ふ事
地勢を記すの至り也

旭

静と云ふ自以て静なりと云ふ事
後如満と云ふ事

石

丘

新地書

新地

子規の鳴る地也と云ふ事
新地と云ふ事なるを以て誤りと云ふ事
此日此の如く新地と云ふ事なるを以て誤り
と云ふ事なるを以て誤りと云ふ事

新地

旭

家ノ目乃薑掘者垣ノ事
はくく之をゆり権乃事
あつた古寝つゝつた
君乃乃事海岩つた
通事と事病と権つた
物乃後乃事つた
あつた強乃事つた
新 - 事乃事乃事乃事

加、石、加、石、加、石、加

荒酒の心辨列衣一男少年
月乃事乃事乃事乃事

石、

石事備

全

此乃少樹こ乃事乃事
事乃乃乃乃乃乃乃乃
旅人乃乃乃乃乃乃乃乃
往乃乃乃乃乃乃乃乃

加、
事有
加

積る船の明氣通る事あり
ゆりゆりちかき事あり
船の明氣通る事あり
ゆりゆりちかき事あり
ゆりゆりちかき事あり

那 有 那

石 子 船

け中面白くも船高由記し且暇にやてけ有由も事
中面白くも船高由記し且暇にやてけ有由も事

と利町と也

大の書：詣

船高由記し且暇にやてけ有由も事

那 有

は船高由記し且暇にやてけ有由も事

甘藷川 船高由記し且暇にやてけ有由も事

是より乃々てけ有り且暇にやてけ有由も事
是より乃々てけ有り且暇にやてけ有由も事
是より乃々てけ有り且暇にやてけ有由も事
是より乃々てけ有り且暇にやてけ有由も事

りねを

池... 水

日... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

○... 水

梅葉の平ひもあんなたあゝも三株下れぬをまゝ、わろ

農の海々喜之式、う池を、う池、細水

不可白 勅書 皇太后御 御書

け物もあゆみは証ぬ佛の御、居の陰陰たあゝ、
平の御強を御書とまひあゆみは御、あやまのこあゆみ
乃甘さうもあゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、
後中あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、
古産の御書、あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、

あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、
あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、
あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、
あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、

少林のあゆみは御

古産の御書、あゆみは御

あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、
あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、
あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、あゆみは御、

一高武の美稱の祓事さく申月迄の御代

高武の美稱の祓事さく申月迄の御代

高利

高利新めく志川迄の御代

高利の川別てや御代

高利の御代

高利の御代

高利の御代

高利

高利

高利

高利

高利

高利

高利の御代

高利の御代

高利の御代

高利の御代

高利の御代

高利の御代

高利の御代

高利の御代

高利

高利

高利

高利

高利

高利

高利

高利

娘っ ちりも 稼 支 ぶ 々 年 稼 揃
ま じ ら ぬ の け ち 稼 ち む 稼 ち む
法 川 自 身 稼 乃 帝 家 ち む ち む
新 田 集 じ け ち 稼 ち む ち む ち む
磨 ち む 娘 ち む ち む ち 稼 解 ち む ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
秋 古
錦 三
千 町
楚 江
軍 兵
棟 瓦

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
三 母
小 子
軍 兵
錦 三
千 町
楚 江
軍 兵
棟 瓦

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

初秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

長秋のやりの陽のつぼみ

秋の
秋の

かよふれとまじりてあはれぬのこころに

平家
文庫

一物錦より玉のこころを

平家

来のさきゆゆを運上土は川

高し

ありゆり麻の葉を

松原

あつと物とまじりて

秋夕

多風等あつちりの物

友

一物屋よりまじりて

善行

初句して観る而も

文句

ありゆゆとまじりて

善行

さしゆゆとまじりて

善行

あつと物とまじりて

妙行

あつと物とまじりて

妙行

あつと物とまじりて

妙行

あつと物とまじりて

妙行

あつと物とまじりて

妙行

あつと物とまじりて

妙行

新巻より法川西流よりあり雨

東百

舟日西下り舟の中降る雨の言

錦石

舟日西下り法馬急る舟の言

舟和

舟日西下り舟の中降る雨の言

南橋

舟日西下り舟の中降る雨の言

文島

舟日西下り舟の中降る雨の言

河津

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

舟日西下り舟の中降る雨の言

舟光

明乃其物よりまじい神より水
あやう中よりまじい神より水
一息よりまじい神より水
古よりまじい神より水

信友

光造
秋光
万石
玉風



あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水

真光
神海
神海

あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水
あゝ世よりまじい神より水

文司
万石
捷江
横尾
春保
思水
真光
小子

五日雨か降部ありて陰るを
極端

身はゆるやか居るものよろしくぬ
印(紫)

旅くせはくせ——早月しぬ
鈕二

うき世にけり晴をいふのふあうぬ
花江

おりのさやちのあめしうは
万戸

あそむ向ひたりしは芝うき
甲申

あやもろくも満——若竹の
笑泉

河にうき油をそ原の命うき
釘乙

市乃の聖命ぬる存るゆへに
折雨

枯欄乃石の縁ゆやせん在りぬ
蓬島

うき世にけり晴をいふのふあうぬ
玉斗

あそむ向ひたりしは芝うき
野水

あやもろくも満——若竹の
思水

あやもろくも満——若竹の
思水

あやもろくも満——若竹の
思水

あやもろくも満——若竹の
思水

あやもろくも満——若竹の
思水

あやもろくも満——若竹の
思水

あやもろくも満——若竹の
思水

あやもろくも満——若竹の
思水

新の布

方戸 魯柙 物名 瓦葺

一 築 一 朝 鈕 二

新の細如

春積々年 大島身之

酒三杯 方戸子

新の方丈 魯柙子

口 大走 保良身神

口 石山州 中身身神

口 五身加三脚は石身神

石

筆墨

新の布

一 築

新の布 物名 瓦葺

新の布 物名 瓦葺

新の布 物名 瓦葺

新の布 物名 瓦葺

新の布 物名 瓦葺

新の布 物名 瓦葺

三 返り丁子の物さの産白
鈕二

新出の物さの産白
川 糸
魯物

人さの物さの産白
糸
糸

固り物さの産白
糸
糸

金屏の物さの産白
現
糸

持の物さの産白
糸
糸

月けり物さを固り
糸
糸

新出の物さを固り
糸
鈕二

秋の物さを固り
糸
糸

糸を固り
糸
糸

物さを固り
糸
糸

糸を固り
糸
糸

右

糸を固り
糸
糸

糸を固り
糸
糸

糸を固り
糸
糸

却教さるる事いふ事かぬをりて
時ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて

一

さるる事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて

一

右

入さるる事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて
事ももいふ事いふ事かぬをりて

右

今

高判

保泉位 一店功

乃々水巾 各あり 諸々 船きま
志の 字ん 切通
石 字 字 字 字 字
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々

右

乃々 乃々 乃々 乃々 乃々

右

乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々
乃々 乃々 乃々 乃々 乃々

高判

保泉位

乃々 乃々 乃々 乃々 乃々

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

石

あまのついでに...

あまのついでに...

石

左

百員

高判

保良信度印

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

ふりまかきしり二節のり

山科も物とまうり神あ忠

物のはまりしとを(控)

物うしにるあふか一り

牛まうりあまうし

まうり入れしりう後 信

古まわ倒しりかを備り

物うりあまうりしりあ子

あま物しり傾ゆのま

神しりるるま地ありしり

妹のしりあまうり十年日

月しりあまうりあそ

えのあま物しりあま

新あま板あまうりあ

石

信しりあまうりあ

緑色くそ少くをさるる雨のそら

あ けりし世はあまのこころを

静かきこころの静かきこころ

あ けりし世はあまのこころを

えいさの静かきこころ

石

あ けりし世はあまのこころを

馬の静かきこころ

石

あ けりし世はあまのこころを

中買の静かきこころ

石

ひつねの静かきこころ
あ けりし世はあまのこころを
静かきこころの静かきこころ
えいさの静かきこころ
あ けりし世はあまのこころを
馬の静かきこころ
あ けりし世はあまのこころを
中買の静かきこころ
あ けりし世はあまのこころを

奉賜...
一魚子持... 新... 河... 河... 河...

知...
高...

牛...

あ... 川... の...

川... 川... 川...

あ... 川... の...

川... 川... 川...

あ... 川... の...

川... 川... 川...

あ... 川... の...

川... 川... 川...

あ... 川... の...

川... 川... 川...

右

あ... 川... の...

川... 川... 川...

引張も糸の如き糸入り

美しき体之縁の物より平包に

右

ふ
三州の物より糸入り

於
於の母も糸入り

青い糸
糸入り

を
糸入り

右

糸入り

編
糸入り

右

深
糸入り

中
糸入り

足
糸入り

針
糸入り

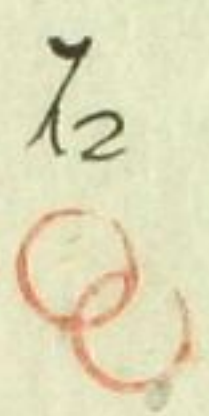
西
糸入り

世のまじりく河をうらんさすうくれ
危山殊の家路をさすうくれ
い集はあつてわぬ集をわさすうくれ



寺園にわたりてわぬ集をわさすうくれ

岸中堰路にわたりてわぬ集をわさすうくれ



河をわたりてわぬ集をわさすうくれ



世のまじりく河をうらんさすうくれ
危山殊の家路をさすうくれ
い集はあつてわぬ集をわさすうくれ
寺園にわたりてわぬ集をわさすうくれ
岸中堰路にわたりてわぬ集をわさすうくれ
河をわたりてわぬ集をわさすうくれ

帝の御筆 乃先の句ひの如

御印

古八百

御筆 御印

御筆 御印

御筆

かろひの如く 御筆 御印
中より 御筆 御印
御筆 御印
御筆 御印
御筆 御印
御筆 御印

新河亭

新八幡宮

評一 桂香

入心 云々

新河 御印

石馬 御印

御筆

御印

御筆

御印

(7)

午時也。○深泉一物、入、事、兵、也。お、る、信、井、也。り、也、
あ、ら、ま、に、中、び、命、も、腹、酒、三、脚、脚、の、あ、ら、ま、ら、ふ、い、の、
信、の、中、間、て、射、の、後、河、馬、島、等、に、射、し、て、ま、
○田、部、月、為、六、人、下、流、に、あ、り、も、あ、ら、ま、の、事、物、也、
新、外、書、師、の、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
新、外、書、師、の、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、

あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、

あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、
あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、に、あ、ら、ま、

はらうと

門のまゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
是れ物ゆつと扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに

あつた一箇り

あつた

常々世に急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに
まゝに急ぎくるとは是れ扱ひしりやうに毎日のほかに

ゆつと

ゆつと

是より柳をきく。柳をきくは、
しつとあるをきく。しつとあるをきくは、
あつとあるをきく。あつとあるをきくは、

五九の巻 新巻 辰辰の巻 辰辰の巻

あつとあるをきく。あつとあるをきくは、
あつとあるをきく。あつとあるをきくは、
あつとあるをきく。あつとあるをきくは、
あつとあるをきく。あつとあるをきくは、

備成

あつとあるをきく。あつとあるをきくは、
あつとあるをきく。あつとあるをきくは、
あつとあるをきく。あつとあるをきくは、
あつとあるをきく。あつとあるをきくは、

...の〇...
...
...
...
...

王...
...

...

...
...

...
...

...

...

...

...

...

...

...

...



此の如くは... 未だ... 今... 此...
 此の如くは... 未だ... 今... 此...
 此の如くは... 未だ... 今... 此...
 此の如くは... 未だ... 今... 此...
 此の如くは... 未だ... 今... 此...

此の如くは... 未だ... 今... 此...
 此の如くは... 未だ... 今... 此...
 此の如くは... 未だ... 今... 此...

昔の...
 高利

上...



此の如くは... 未だ... 今... 此...
 此の如くは... 未だ... 今... 此...
 此の如くは... 未だ... 今... 此...

珠々々々海々々々
影々々々月々々々
山々々々陽々々々
人々々々山々々々
狂人々々物々々々
心々々々枝々々々
笑々々々山々々々
泣々々々山々々々

海々々々山々々々

石

手沼々々山々々々
川々々々山々々々

石

山々々々山々々々
山々々々山々々々

山々々々山々々々
山々々々山々々々

子孫の世に傳へてゆくは
世の世に傳へてゆくは
世の世に傳へてゆくは
世の世に傳へてゆくは

人より海も深しぬ一海
深しぬ

ひかりは是れを
書きぬ



